

---

# きっといつか、約束を果たすまで

北川瑞稀

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

きつといつか、約束を果たすまで

### 【Nコード】

N0037K

### 【作者名】

北川瑞稀

### 【あらすじ】

「何もできない。ただ、蘭を苦しませることしか。」

“約束の有効期限”は、あるのだろうか。

サイトからの再掲載です

学校からの帰り道。

元太たちと別れ、一人で道を歩いていた。

ふと人の気配を感じ、周りを見渡すと公園のベンチに想い人がひとり、座っていた。

顔を俯いて、悲しそうに、辛そうに。

…蘭。

オレはしばらく、声をかけることができなかった。

昔から蘭を泣かせる奴、悲しませる奴は赦せないって思っていたけれど。

今も、そう。

自分が赦せなかった。

今、蘭を苦しめているのは、自分。ここにいる張本人。

だけど今の自分の力じゃ何ができるわけでもなく、ただ…黙って見守るしかない。

それが、とても。

辛くて、苦しくて…どうしようもなかった。

苦しんでる蘭を見るのは、嫌だ。

逃げているということをわかっているのに、自分が楽になりたいからって、口を挟むのも嫌だ。

…だけど、オレは…。

「蘭姉ちゃん…？」

蘭が苦しむのを見るほうが嫌だから。

「コ、コナン君！どうしたのー？こんなところで。」  
「げ、元太たちと遊んだ帰りで…。蘭姉ちゃんこそ、何やってるの？」

まさかお前を見ていた、なんて言えるはずがない。  
慌てて、一番気になっていたことを訊く。

「え…」

蘭の顔が、強ばった。

…ああ、そうか。

「新一兄ちゃんのこと、何かあった？」

蘭はふう、と溜め息をつく、困ったように微笑んで、言った。

「…もう、コナン君にはなんでもお見通しね！そうね…コナン君には言っちゃおうかな…」

そしてポツリ、ポツリと話し始める。

「…あのね、今日…三年の池田先輩から、告白されちゃったの。」

「え！？そ、それで…」

「もちろん断ったよ。新一が好きだから、って。」

蘭は真剣な目で遠くを見つめていた。

「…だけどね。先輩が…どこか遠くに行ってて彼女を不安にさせて放ってる男なんか、やめちまえ！」って言って、抱きしめられて…キスされそうになったの。」

「…それで…どうなったの？」

「間一髪。園子が助けてくれたわ…」

俺はホッと息をつく。

「それで、園子が「蘭は新一君に待っててほしいって言ったのよ！だから蘭は、新一君を信じて待ってるの！」って言うてくれたんだけど…その後ね。先輩が…「そんな約束忘れてるんじゃない？約束に有効期限があるかもしれないし。」…って。」

「蘭姉ちゃん…」

いつの間にか、周りは暗くなってきた。

「…ねえ、コナン君。約束に有効期限ってあるのかな？」

蘭はどこかさびしそうに、問うた。

「え…？」

「もし、あるのなら…新一との約束はもうとっくに期限切れかな？  
いつまで待っても戻ってこないし…」

…そんなわけ、ない。

オレは…オレは……。

「…新一兄ちゃんは…蘭姉ちゃんとの約束は、絶対…絶対…守るよ！  
ほんとに絶対！」

「コナン君？」

蘭は『なんで人のことなのに、こんなにはっきり断言できるんだろ？』とでも言いたそうな顔をしている。

「新一兄ちゃんだって…蘭姉ちゃんのこと家族みたいに…うつん、家族よりも…大切に思ってるよ！」

「そう…かなあ？」

「絶対！」

力をこめて、強く、強く、言う。

そんな俺を見て、蘭はふっと微笑んだ。

「新一は…昔から私との約束、破りまくりだったわよ？時間守らないし、約束自体を忘れてたことだってあるし…」

「でもこれは…本当に…命を懸けても…守る、って…死んでも帰ってくるからって…約束したんだよ…」

胸が、苦しかった。

そんなことしか言えない自分が嫌だった。

「…もう、コナン君までそんな顔しないでよ！」

「僕は、蘭姉ちゃんの話聞くことしかできないから。」

「……。」

そう、オレはこうすることしかできない。

だけど、蘭が苦しむところは見たくない。

「…蘭姉ちゃん。苦しかったら、待たなくてもいいんだよ？」

「…え？」

唐突に言った言葉に、蘭は目を丸くした。

「新一兄ちゃんなら、絶対…約束守ると思うよ。」

「…けどね、蘭姉ちゃんを放つという事件にかまけてる、薄情者の自分のことなんかで蘭姉ちゃんが苦しむなんて新一兄ちゃん自身が赦せないんじゃない？」

「…珍しいね、コナン君が新一の悪口言うなんて…」

「だって…っ。」

どうかしてるよ、本当に。

蘭に待っててほしいと思ってるくせに。

だけど、蘭の幸せを心では祈ってるから…。

…バカか、オレは。

「…確かにね、新一は約束を守らない薄情者だし…。私だって…苦しいよ？ 苦しくないわけ、ないじゃない。だけど…決めたんだ。」

蘭はいつものように、明るく笑って、言った。

「…え…」

「新一を、待ち続けますって。たとえ…約束の有効期限が切れたとしても…ね。」

蘭の真っ直ぐな、綺麗で蒼い瞳。

ウソではない、本当のことを言っている時の瞳。

「…バカでしょ？ 私って…」

「そうかもね。まあ新一ちゃんのほうがバカだと思っけど。」

「ふふっ…もう、コナン君！ いったいどっちの味方なのよ！」

…どっち？

決まってるだろ。

「ははは…。ねえ、今日の夜ごはんハンバーグがいいな！」

「よし。私が腕をふるって並のレストランよりもおいしいハンバーグ作ってあげるわ！」

「やったー！！」

オレはただ、オメーの笑顔が見たいんだよ。

外は夕空、帰り道。

約束が果たされるのは、まだ先の話。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0037k/>

---

きつといつか、約束を果たすまで

2011年10月6日08時16分発行